

アールズ

～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2010年 秋 号
第64号

平城遷都 1300 年祭記念事業

特別号



平城遷都1300年祭記念事業

～茶の文化発祥の地 奈良～

奈良県建築士会女性委員会は、平城遷都1300年祭の平城宮跡会場交流ホールにおいて、茶の文化発祥の地奈良として「もてなしの心」を伝えるべく茶室の様式美や伝統美、その構法・構築の仕方を展示し、わび茶の祖「村田珠光」の茶室「獨盧庵」を再現します。

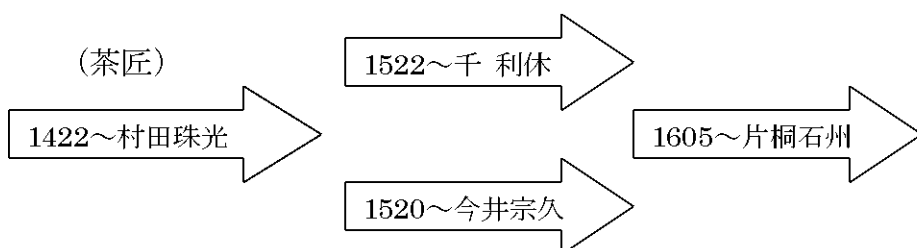
襖の引手

- * 出展期間 平成22年7月1日(木)～7月3日(土)
9:00～16:30(3日は17:30迄)
- * 場 所 交流広場「交流ホール」にて



○展示内容

- 1、茶の伝来 * 茶の伝来・大和茶の発祥 * 高山茶筌・赤膚焼
* 武家茶から侘び茶へ、茶祖(村田珠光)による4畳半茶室形式へ



好評販売中

- 2、大和茶室紹介 * 奈良を代表する茶室をパネルで紹介
・西大寺(六窓庵) ・慈光院(高林庵・閑) ・當麻寺中之坊(双塔庵・知足庵)
・長谷寺(茄藻庵) ・室生寺(知水庵) など・・・・・・10軒
- 3、茶室模型(原寸)製作・展示・・・・称名寺(獨盧庵)

獨盧庵



八窓庵



(社)奈良県建築士会
女性委員会

〒630-8115 奈良市大宮町二丁目5番7号
TEL (0742)30-3111
FAX (0742)33-4333

目次

- 平城遷都 1300 年祭記念事業を終えて …… 藤山 久仁子 P1

- 平城遷都 1300 年記念祭事業参加を終えて ……安田 千鶴代 P1

- 平城遷都 1300 年記念祭事業勉強会に参加して… 岡田 伸子 P2

- 各班からの報告
 - 1 班 茶の伝来 P3

 - 2 班 大和茶室紹介 P7

 - 3 班 原寸茶室模型 起こし絵制作 P12

- 平城遷都 1300 年祭記念事業 参加者からのコメント P14

- 平城遷都 1300 年祭記念事業 活動の記録写真 P16

- 平城遷都 1300 年祭記念事業 参加・協力した女性建築士会員等 P18

- 今後の事業予定・編集後記 P19

平城遷都 1300 年祭記念事業を終えて
女性委員会委員長 藤山 久仁子

昨年度から本年度にかけての一番大きな女性委員会事業である 平城遷都 1300 年祭記念事業

～茶の文化発祥の地 奈良～

を無事終了することが出来ました事を、まず皆様にご報告すると共に御協力いただきました多くの皆様にお礼申し上げます。

安田事業委員長（前女性委員長）から事業年度途中で引継ぎ、記念事業協会からの打ち合わせも平成 22 年 1 月になってからと何分にも時間が無かった上、会長はじめ理事の皆様からの大きな期待を頂き、不安ばかりの出発でした。幸いにも事業本体は安田事業委員長がその中心を引き受けていただき、上田副会長の温かい叱咤激励のもと、諸先輩方の御協力を得ることが出来ました。そして、手弁当でそれぞれの家族への思いに後ろ髪を引かれながら、連日夜遅くまで準備に携わってくださった方・あの暑さの中、古代衣装に身を包み広い会場内を PR に走り回ってくださった方・展示説明に張り付いてくださった方など、一致団結した女性委員会のメンバーのがんばりと、その力の大きさを再認識させられた事業でした。終了後も色々な場面で好評を戴くことが多く、私たち奈良県建築士会や女性委員会の活動を、士会以外の方々には知っていただける良い機会を得られたのかなと感じております。

皆様本当にお疲れ様でした。そして、今後の更なる活動の躍進に御協力よろしく願いいたします。

平城遷都 1300 年祭記念事業参加を終えて
記念事業部会長 安田千鶴代

2010 年、「平城遷都 1300 年祭」平城宮跡会場、交流ホール内において 4 月 24 日から 11 月 7 日までの期間、中国・韓国などの海外各地や全国の平城京ゆかりの地域（都道府県・市町村）や県内の市町村、県内の公益法人等との交流を促進・発展させるため特別ウィーク・デーを決めて参加者と来館者の交流

を図る展示が計画されました。私達建築士会には、2009 年 5 月、奈良県まちづくり推進局 建築課より出展依頼の連絡が入り女性委員会の手を上げました。

当初、記念事業に参加要請があったときは、3m×6m のスペースに出展と聞き何程の事も無いと引き受けましたが、記念事業協会から届いた資料には、交流ホールの展示スペース約 400 m²とあり、委員会の中ではこの短い期間で準備は出来ないから辞退しようと言う意見も出ました。しかし同時参加として奈良県宅地建物取引業協会と日本建築家協会奈良地域会の併せて 3 団体の出展でお願いしようと言うこともあり早々に 3 団体の協議を経て展示スペース割りを進めました。又私達建築士会の中で、奈良県をアピール出来る内容で協力して頂ける支部及び委員会として、奈良県にある重要伝統的建造物群保存地区（橿原市：今井町・宇陀市：松山地区）がある橿原支部の中上博功支部長と宇陀支部の松塚幾善支部長に出展をお願いしたところ快くお引き受け頂きました。又、事業委員会の奈良県景観調和デザイン賞部会（隔年周期で奈良県下の景観に調和した町並みと建造物を知事賞・士会会長賞・審査委員長賞・奨励賞として表彰。景観に配慮した建物の啓発に寄与する事業部会）の出展も頂く事が出来ました。青年委員会は、当初から女性委員会と共に手を上げて協力して参りました。

私達女性委員会はこの記念すべき平城遷都 1300 年祭記念事業にどんな形で参加出来るかを検討し、「奈良こそが茶の文化の発祥の地」としてアピールする事にしました。茶の伝来としても諸説有りますが私達は、遣唐使として空海（弘法大使）が中国から茶種を持ち帰り大和高原に茶の栽培を広めたとする説により「茶の文化発祥の地～奈良」をテーマに出展事業を始めました。茶と茶の文化については、「茶の伝来と奈良に於ける茶文化&地場の茶道具」「奈良茶室紹介」「原寸茶室の再現」と、三つのコーナーに分けて展示する事にしました。この三つのコーナーについては、各担当者からの報告が有りますのでご覧頂くことにして、私は全体の進め方について少しかお話し致します。

出展形態も決まり参加費用は、参加者負担とあり、

遷都 1300 年祭記念事業勉強会に参加して
第2代女性委員会委員長 岡田 伸子

まず事業予算を組む事からはじまりました。一番頭の痛い原寸茶室の予算。材料費をはじめ施工費は、業者の方に寸志程度のお礼金でご協力を頂くとして、記念団扇の 2000 枚配布・大和茶室探訪の茶室再調査の上改訂版として 200 冊増刷。出品展示パネル作成、パンフレット作成等々・・・。

以上を纏めて 3 月 18 日理事会において、事業概要及び概算予算資料提出の上説明。提示した予算額で士会としての事業が全うできるのかと参加理事からの質問に、「誰よりも私自身不安で一杯です」と応えるほか有りませんでした。

5 月 20 日総会終了後、士会員の皆様に事業説明とご協力を呼びかけた後は、「奈良県女性委員会の底力を見せるだけ」と気持ちが固まりました。平成 10 年、建築士会全国大会(奈良大会)で女性委員会は、第二分科会を西大寺で開き全国からの参加士会員 250 人の出席を頂き(満員御礼)1 日目は、15 人程度のグループをスタッフ 1 名で奈良公園付近の四茶室見学案内(薄茶の振る舞い有り)。2 日目は、西大寺で 5 分科会と西大寺のご厚志で季節外れの茶室盛りの打って返しの 2 部構成で進め、締め括りとして中村昌生先生の御講義を頂きました。当時のことを思い出し、今回の参加会員で当時のことを知らない人が多くなり是非とも成功して私達が味わった喜びを感じてほしいと強く思いました。7 月 1 日から 7 月 3 日の出展、初日開場 1 時間程度は、来館者が一人もなく夏の平日とは言え張り詰めていた気持ちが切れそうになる中、古代衣装を着て会場にチラシを持って散って行った会員の効果もあり三々五々来館者が訪れ、開催前から 2 回に渡り広報記事を取り上げて頂いた建設新報社。第 1 日目を読売新聞が、2 日目を奈良新聞が原寸茶室の写真を大きく掲載、記事として取り上げて頂いた事もあり、最終日に来館者の集計(館内案内図を来館者毎に配布)が 1000 人を越えたことが分かり参加者全員笑顔で終わることが出来ました。今回の事業が参加会員の自信に繋がったことが一番の成果だとうれしく思いました。

遷都 1300 年祭に展示参加。女性委員会は短い準備期間にもかかわらず見事な出品で拍手喝采です。私も勉強会の講師というお役をいただき委員会の皆様と一緒に努力できたことが、またひとつ良い思い出になりました。

勉強会は 3 回シリーズ、第 1 回は茶礼祖・村田珠光について、第 2 回は茶室のしつらえ、第 3 回は出展茶室のガイドで、各々 2 時間程度のレクチャーでした。しばらく茶室の勉強から離れており、資料を探すところからスタート。出展は奈良の神社・仏閣の茶室。

思えば、‘大和茶室探訪’第 1 版の発行は 1998 年。あれからもう 12 年も経つのかと懐かしくもあり、聞き取りの原稿や図面の下書きや少し日焼けした写真を眺めました。仕事そっちのけで準備をはじめると、やはり茶室は魔物。とりつかれてしまい、夜中まであれやこれやと資料探しをしていることに気がつきます。茶室には不思議な魅力があります。

1300 年祭出展にあたり、奈良が茶の発祥の地であること、そして茶礼祖・村田珠光を生んだ地であることをテーマに掲げた事は正解であったと思います。結果は大成功。1000 人を越える見学者があったこと。何よりスタッフ一同一丸となって、目標達成したことが 1 番の成果だと思います。

余談になりますが、私は村田珠光という人物にとっても興味を持っています。『侘び・寂び』の先駆者、一休禪師から円悟墨蹟を授けられ、質実にして敬と礼を重んじ真の茶道を説いた珠光。一方では塔頭に身をおき僧となりながら、還欲して世俗の生活を送ったり、又は商人の道を選んで茶亭を構えたりと、もっともっと珠光を知りたくなります。いつか大河ドラマにでも取り上げてくれないかと楽しみにしています。勉強会には大勢の方が参加して下さり恐縮しております。おしゃべりに夢中で皆様にはお耳疲れではありませんでしたか。少し反省しております。スタッフの皆様、これを機に是非お茶室の勉強を継続してください。

平城遷都 1300 年祭記念事業

1 班 「茶の伝来」

前田 晴子

まだ寒い平成 22 年 1 月 26 日午後 6 時～、女性委員会会議があり「平城遷都 1300 年祭記念事業」への参加出展について第 1 回目の会議がありました。そして出展内容の説明と、3 班への班分け及び誰がどの班に入るかの担当者決め等がありました。班分けは大よそ自らの申し出でメンバーが決まり期待と不安が交錯し、正直今から何をどう始めるのか不安の方が大きかったのではないのでしょうか。

1 班の展示テーマは「茶の伝来」で更に【茶の伝来・大和茶の発祥】【高山茶筌】【赤膚焼】【村田珠光と茶室】の 4 つと【看板作成】に別れそれぞれの取材・調査・作成の担当者が決まり、いよいよスタートしました。1 班のスケジュールは 2～3 月は文献・資料集めと読み解き（各担当者）、4 月図面化検討・トレース・写真化、5 月パネル化への検討、その間全体勉強会・1 班各々が取材や持分のまとめ・班内での質問や検討・お互いの調査内容への理解等、6/14～15 藤山班長のトヤマ建築設計事務所にお邪魔し総出でパネル作成、6/18 全体リハーサル、6/22 パネルの修正等、6/30 会場設営、7/1 当日を迎える。今思えば常に宿題があり少々寝不足の日々でした。

【茶の伝来・大和茶の発祥】

茶の伝来については諸説ありますが、奈良では「弘法大師の茶種持ち帰り説」があり、平安時代の約 1200 年前、遣唐使空海が唐より茶種を持ち帰り高弟の堅恵（けんけい）が茶を栽培し、大和高原や山城一帯に広めていったという説です。それに関する事は宇陀市室生寺茶室「知水庵」の掛物にも記されています。室生寺西方の仏隆寺には「大和茶発祥の地」の石碑や、空海が持ち帰ったと伝えられる「茶臼」があります。そこで 5 月中旬取材班（前田）は藤山班長に同行いただき石碑や茶臼の確認に出向きました。茶臼はあいにく仏隆寺ご住職が不在で確認できませんでしたが、本堂の奥に保存されていると

の事で 1200 年前の茶臼がすぐ近くにあるという事、しかもこんな山奥の寺にある事がとても不思議でした。ついで茶畑の撮影に移動しました。季節は初夏でしたが今冬は寒さがいつまでも続き、茶畑もいい状態ではないと聞いておりました。偶然にも奈良市水間町にて燦燦と陽をあびた茶畑に出会い、その写真を 1 班のパネルに展示する事ができました。今回の調査で、空海・高野山・女人禁制→室生寺・女人高野→仏隆寺（室生派寺院）・茶臼の現存、と大きな歴史の流れに出会い、遣唐使空海～唐～茶種～大和の国より茶が広まった、という事を初めて知り事業出展テーマ通りの茶の文化が奈良から始まったと身をもって感じる事ができました。



6/22 最終修正作業中

【高山茶筌】

茶筌については取材班（平島さん）が文献や藤山班長に同行いただき生駒市高山竹林園等への取材や写真撮影等を行いました。又茶筌の里の地元生駒市役所のご協力で茶筌製作工程写真パネルや工程模型もお借りでき当日展示できました。

奈良高山（生駒市高山地区）は日本の茶筌の 9 割の生産を誇っており、奈良特産品の中でも高山茶筌は名声が高いのです。それは単に産額の多少だけでなく伝統工芸として全て手作りの特殊技術によるものだからです。（*ここで茶筌の字に触れますが、高山茶筌は竹の持つ特徴の全てを活かすとの意で「茶筌」ではなく「茶筌」の字となっています。）

茶筌の由来は、室町時代中期「わび茶の祖」と言われる称名寺住職の村田珠光が親交のあった鷹山（後の高山）城主頼業の次男宗砌（そうせつ）に粉茶をまぜる道具作りを依頼し、宗砌は苦心を重ね茶筌を作ったのが始まりと伝えられています。その後珠光が京都へ移り後土御門天皇の御幸を仰いだ折、天皇が宗砌の茶筌をご覧になり、その精巧さ・羽の

様な優雅さ・穂先のしなやかさと柔らかさを賞賛され「高穂」の名を賜ったのです。その「高」にちなみ鷹山も「高山」と改め宗砌は茶釜作りに一層励み、その製法は高山家の秘伝と伝えられ代々子相伝の技となりました。後、高山家は没落するもその秘伝は16名の家臣によって脈々と伝えられ現在に至り、奈良高山は全国唯一の茶釜の里となりました。

【赤膚焼】

赤膚焼は奈良を代表する茶器です。取材班（辻本さん）は文献の調査や藤山班長に同行いただき奈良市赤膚の大塩玉泉（順子）窯元様へ見学・取材・製作風景の撮影等を行いました。

赤膚焼と言うと、奈良絵とよばれる図柄が数多く見られます。これは経典の意味がわかり易い様に絵を付けた‘絵因果経’の絵をモチーフにしたのが始まりとされています。

赤膚焼の名前の由来は二説あり、地名からの由来と焼き上げると赤身を帯びるからの二説があります。奈良市赤膚近辺の西ノ京丘陵一体は古くからの窯業地であり、桃山時代大和郡山城主大和大納言秀長が尾張常滑から陶工与九郎を招き、風炉をはじめ茶器を作ったそうです。江戸時代に入ると遠州流の開祖小堀遠州が好みの陶器を作らせ茶道具として世に知らしめた、又は京都より野々村仁清が来て京風の器の製法を指導したとも伝えられています。その後大和郡山城主が京都清水より陶工を招き五条山の廃窯を復興し、赤膚焼は郡山藩御用窯として保護奨励する事になります。郡山藩の御殿医青木木兎や小間物商奥田木白の作品により赤膚焼はその名を全国に高めました。現在赤膚焼は奈良固有の焼き物として愛好されています。

【村田珠光と茶室】

1班の中で最も深く困難な調査でした。今回の事業で称名寺独盧庵の茶室模型を展示する事に決まり、称名寺独盧庵と村田珠光は切り離す事のできない関係にあり、そこで1班は村田珠光についてと、茶～喫茶の始まり～茶室への流れを勉強しました。村田珠光についての文献は少なく、又調査内容は奥が深

く中々結論がでないものでした。調べる程に疑問が沸き、担当の武市さんは勤務もある多忙の中何度も図書館等に足を運ばれました。

「わび茶の祖」と言われる村田珠光は奈良に生まれ少年時代を奈良称名寺で過ごし、その後京で一休や能阿弥に学び足利義政の知遇を得、再び奈良に帰りました。珠光は飾りをより簡素化した四畳半の茶室に、人と人のより親密な触れ合いによるわび茶を目指し真の四畳半を設けました。珠光の茶の湯は武野紹鷗（行の四畳半）に継承され、さらに千利休（草の四畳半）へと受け継がれていきました。珠光がその後の流派のあらゆる祖であるという事を知り驚きました。「喫茶のはじまり」では茶が薬用、眠気を払う茶、一服一銭の茶、淋汗の茶、闘茶、と様々な形態があった事を知りました。

【看板作成】

看板作成担当は竹上さんでした。仕事の都合で会議参加が困難な時もありましたが、看板は展示会場の交流ホール入口でお客様を呼び込む重要なもので、その出来栄は皆様もご存知でしょう。



交流ホール入口看板

以上が1班の展示にむけた調査内容等です。メンバーには田ノ岡さんもい

らっしゃいましたが、途中家族の事情で参加を断念されました。当日もパネル説明係、古代衣装を着てチラシ&うちわ配り、記録撮影係と分担し、多忙な藤山新委員長が班長でリーダーシップを取って頂き、それぞれ仕事・家庭を持ちながらの苦心の約6ヶ月でした。来場者に私達の「おもてなしの心」は届いたでしょうか？大変でしたが最後まで力を合わせてやり遂げる事ができ、そして皆様との出会いに感謝です。

1班 茶の伝来 パネル

茶の伝来



茶の伝来に関する歴史的背景と、茶葉の生産工程について説明しています。茶葉の生産工程には、摘み取り、萎凋、揉捻、発酵、乾燥の5つの工程があります。



茶葉の生産工程のフローチャートを示しています。



茶畑の風景



茶畑の風景



茶碗と茶托

茶の伝来

赤膚焼の由来・歴史

【由来】

赤膚焼の由来は、江戸時代中期に始まったとされています。当時は、茶葉を焙じることが一般的で、焙じられた茶葉を焙じ器で焙じると、茶葉が赤く焼けるようになりました。これが赤膚焼の由来です。

【歴史】

赤膚焼の歴史は、江戸時代中期から始まり、明治時代には、茶葉の焙じることが一般的になりました。赤膚焼は、茶葉の焙じることが一般的になったことで、茶葉の焙じることが一般的になりました。赤膚焼は、茶葉の焙じることが一般的になったことで、茶葉の焙じることが一般的になりました。




赤膚焼き由来・歴史

茶釜の里

—奈良 高山—



茶釜の里に関する歴史的背景と、茶釜の生産工程について説明しています。茶釜の生産工程には、鍛冶、鍛錬、仕上げの3つの工程があります。

茶釜の生産工程のフローチャートを示しています。

茶釜の里

村田珠光により 四畳半茶室形式へ

村田珠光によるわけ前

村田珠光は、室町時代中期に活躍した茶道家です。彼は、茶室の形式を四畳半に統一し、茶室の形式を四畳半に統一しました。村田珠光は、茶室の形式を四畳半に統一し、茶室の形式を四畳半に統一しました。



村田珠光の肖像画

村田珠光により四畳半茶室形式へ

平城遷都1300年祭記念事業

2班 大和茶室紹介

班長：杉田教代

・参加テーマ「遣唐使から連なる茶の文化発祥の地 奈良」

企画チームを3班に分かれて行動します。

- 1、茶の伝来・大和茶の発祥
- 2、大和茶室紹介（パネルで紹介）
- 3、茶室模型（原寸）作製・展示

私（杉田）が、2班の班長を務める事となり、女性委員会会員から7名が2班のメンバーに決まりました。

女性会員の皆さん全員に安田事業委員長より参加依頼のハガキが届きました、15名のメンバーめざし、メンバースタッフの募集開始です。

22年1月30日の新年会に参加の方々に、2班に入っていただけのように勧誘し、又、お電話にて参加の依頼も行いました。

（一生懸命アピール、2班に参加してください。）

2班に募集メンバーが加わり13名になりました。

（13名一人一人が、自分に出来る事をさせて頂こうと参加の決意をしてメンバーに加わりました。）

＊2班（大和茶室紹介）行動開始

まず、パネル先のお茶室の選定から始めます、上田副会長にご相談、アドバイスを頂きました。

1巻の大和茶室探訪より13軒、2巻の大和茶室探訪Ⅱより6軒の推薦をしていただきました。

2巻のお茶室は個人の所有なのでパネル展示先からは外す事となり、1巻の推薦頂いた13軒から選ぶことに、でもその前にまず、推薦して頂いたお茶室を見学に行く事となりました。

（私と宮崎さんがお茶室に携わるのが、初めてでしたので、まず見てこようと・・・青木さん：梶谷さんにお付き合い願いました。）

＊2月5日、岡田先生の勉強会がありお茶室見学注意事項をプリントで頂く。

- ・露地から茶室に入るまで（5項目）
- ・茶室に入ってから（8項目）
- ・拝見まで（6項目）

（勉強会が終わってから、かばんの中に白いソックスを持参していました。）

＊1巻に掲載されていますお茶室の中から

A-3：依水園（奈良市）、A-12：西大寺（六窓庵：奈良市）、A-13：唐招提寺奥の院西方院（六松庵奈良市）、A-16：称名寺（獨廬庵：奈良市）A-18：志賀直哉旧居（奈良市）、A-19：（財）松柏美術館旧佐伯邸（伯泉亭：奈良市）、A-26：奈良国立博物館（八窓庵：奈良市）、A-31：吉城園（奈良市）、B-1：慈光院（高林庵：大和郡山市）、F-4：當麻寺中之坊（双塔庵、知足庵：葛城市）、F-6：當麻寺奥院（慈教庵：葛城市）、I-2：長谷寺（茄藻庵：桜井市）、L-3：室生寺（知水庵：宇陀市）・・・13軒見学可能（6軒）、要予約（4軒）不可（3軒）・・・下見見学に取り掛かりました、可のお茶室が不可に変わっている所が数軒でできました、その上、屋根の葺き替え工事中の所も2軒ありました、13軒の中で、見学に行ける所は見学に、土曜日1日と平日の行動になりましたので、見学は少人数で行ないました、推薦先以外のお茶室にもいきました。

（推薦して頂いたお茶室はすべてにおいて☆がいくつも付く奈良を代表するお茶室でした。）

下見、見学は2月中に終わりました。上田副会長から、角川文庫「豪快茶人伝」を読んでみてはと、メールを頂き、購入、読みました。（お茶に関する漢字の読み方、難しい。）

＊茶入：灰被天目？・・・想像できない？・・・

＊茶釜：姥口平釜？・・・姥の口のような釜？・・・

＊茶花：凜と咲く胡蝶佐助・・・（見てみたい）

中輪の一重ラップ 咲き有楽椿

＊食べてみたい：「利休蒲鉾」「利休豆腐」「織部饅頭」

＊2班（大和茶室紹介：パネル展示）

再見学撮影開始。（目標11軒）

＊1巻の再版も2班で行なう事となり再版に向けての作業も開始。

上田副会長のご指導により再見学依頼先が寺院が多いので、お彼岸が過ぎてから行動を開始する事に、又それ迄に再版依頼先：見学依頼先への依頼文章の作成、封筒の宛名書きを先にしておく事に班員分担し作業をしました、文章の検索は上田副会長、本保さんをお願いしました。

3月

再版依頼先よりの、返信到着目標3月中(54軒分)

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4 全体 会議	5 見学 称名寺	6	7
8	9	10	11	12 会議 18:30	13	14
15	16	17 彼岸 入り	18	19	20	21 お中日
22	23	24 彼岸明 け	25	26	27 見学 依水園	28
29	30 A-18 B-1 見学	31				

* 3月5日、称名寺見学後
印刷屋さんと打合せ、1巻の元原稿が「ない」との事1巻よりのゲラ印刷を依頼する。

12日の会議にゲラ印刷を含くめ11軒分のゲラを届けて欲しいと依頼。

* 3月12日、再版依頼に関する作業(依頼文作成、発送:返信用封筒の宛名書き)

* 3月26日現在、回答の返信30軒宛先不明1軒。



3/27 依水園 (挺秀軒)

3/30 慈光院 (高林庵)

3/30 志賀直哉旧居

4月

2班で「うちわ」「チラシ」のデザイン案担当に、グループメールが「ツイッター?」

月	火	水	木	金	土	日
			1 会議 18:30	2	3	4
5	6	7	8 釈尊 御誕生会	9 當麻寺 中之坊	10	11
12 11:00 長谷寺	13 交流 ホール見学	14	15 会議 18:30	16	17	18 9:30 六松庵
9	20	21	22	23	24	25
26	27	28 室生寺 松源院	29	30 会議 18:30		

* 4月1日現在返信先より回答が来ていない所9軒(班員電話にて確認の作業を行う。)

パネルレイアウトの相談

* 4月15日
「うちわ」「チラシ」原案作成依頼(班員に)1巻の記載内容「変更無」「少量変更」「大幅変更」の仕分け作業をする。

L-1の松源院(幽庵)返信の記載内容が複雑の為、再見学撮影と決まる。4月30日、再版の為便物、宛先不明で返ってきた「清泉庵・宇陀市」調査報告再版の為の修正文の確認作業。



4/28 室生寺 (知水庵)

4/9 當麻寺中之坊 (双塔庵)

月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6 見学 西大寺	7 當麻寺 奥院	8	9
10 見学 長谷寺	11	12 見学 吉城園	13	14 会議	15	16
17「チラシ」 依頼	18	19	20 会議 総会	21	22	23
24	25 会議	26	27	28 勉強会	29	30
31						

5月14日「うちわ」下地水色に黒の文字、「チラシ」裏表の印刷、配布先の決定
パネル展示予定先見学、写真撮影終了（10軒に）

（奈良国立博物館（八窓庵）屋根葺き替え工事中の為、見送りとなる。）

5月25日「うちわ」案（裏表）決定、再見積（2色で）パネル展示の為（写真：平面図：文章）5軒分決定。



5/6 西大寺(六窓庵)



5/7 當麻寺奥院



4/12、5/10 長谷寺 (茄藻庵)

月	火	水	木	金	土	日
	1 会議	2	3	4	5	6
7 見学 称名寺	8	9 勉強会	10 会議	11	12	13
14	15	16	17 会議	18 18:00 リハーサル	19	20
21	22	23 会議	24	25	26	27
28 会議	29	30 搬入	7/1 交流ホ ール	7/2 交流ホ ール	7/3 交流ホ ール	

6月1日「うちわ」最終決定、「チラシ」大和茶室探訪掲載先へ依頼文と一緒に同封発送。

（62軒へ）パネル展示の為、残りの展示分の作業（写真：平面図：文章）を行なう。6月10日、6月17日リハーサルに間に合わせる様に、パネルの完成めざし作業をする。6月23日「起こし絵」の作業、パネル最終チェック6月28日、パネルの文章間違いの訂正、展示ボード上の布（青）、準備（裁断）。搬入時の持ち込む品物（パネル、備品、その他）のチェック（文章で書出す）



3/5、6/7 称名寺



5/12 吉城園

***1巻 大和茶室探訪再版 (再調査)**

時間の経過があり、2軒の「現存せず」のお茶室がありました。

A-21: 専念寺

A-28: 御蓋荘 (樹間庵)

*パネルの依頼の為に、再見学: 撮影に伺わせていただく中で「引き手」に興味をもちました、1巻に掲載されている「引き手」を見に行きたくなりました。(拝見したのは「月文字引き手」「つぼつぼ引き手」)



月文字引き手



つぼつぼ引き手



襖の引き手



襖の引き手



長谷寺(掛け軸)

*長谷寺 (茄藻庵)
1回目の見学が雨の為、2回目も快く承諾頂、その上2回目の折に茶道の先生もご一緒頂き、貴重な掛け軸も拝見させていただきました。

見ていて心配?のコンビの2人、皆様のお世話になりました、上田様、本保様にいろんな事を教えていただきました。

(室生寺、見学撮影の時間の合間に、後日、足が「パンパン」・・・若いつもりでも歳?ですか



***白熱するリハーサル時の会議**



***1300年祭の会場風景**

*班員も古代衣装を着て会場に (雰囲気盛り上げます。)

*青い布の上で、パネルが冴えます。



***会場でのお話 (要望: 質問)**

*當麻寺よく行きますが、お茶室は何処にあるのですか?

*「室生寺」「長谷寺」何処にお茶室があるのですか?
(よく行かれる寺院に、このような素晴らしいお茶室があるので、見に行きたいと思われていました。)

*にじり口はどうして狭いの?

*志賀直哉旧居は、何処の所有ですか? 奈良県ですか?

*称名寺の漢字「獨廬庵」は、「しゃれこうべ」の「髑髏」ではないのですか?

*奈良県の地図の中に、パネルのお茶室の位置を記載して張り出していただけるとよかったです。

*パネル10軒分のパンフ (まとめて記載されている) は、ありませんか?・・・後で1・2巻の大和茶室探訪を購入していただきました。

*一輪ざしの黄色のお花の名前は? (山で見かけるそうです) (13名の班員の皆様ご協力有難うございました。)

◎ 追 記 ◎

*おもてなしの心を学ばせていただきました。(L-1松源院:幽庵)

*1巻の大和茶室探訪に記載されている平面図の「貴人口」が今回再調査をしましたところ「躡口」に変更になり、写真の差し替えが必要となりましたので、見学:撮影のお願いをしました、快く承諾頂き、4月28日に行きました。お茶室もよかったです、本堂内の造作の素晴らしさにも感動しました。



本堂に「いおり」がありました。

「いおり」に火が入っており、撮影終了後に廻りに座らせていただき、お薄茶を

いただきました、これは「志野焼・・・」これは「元総理の細川さんの・・・」、貴重なお茶碗でお薄茶をいただきました、私たちの為に「お菓子」「お茶椀」の用意をしてお部屋(「いおり」に火をいれて)の準備をして迎えていただきました。

見学:撮影に伺った私たちを、お客としてもてなしていただき感激しました。

*感動した本堂内の1つ、1つです。



*住職の手作り
(ステンドグラス)



(*2班の資料は纏めて、建築士会館1階会議室壁際書棚の中に入っております、写真の全部は多いのでプリントされているのは一部分で、他はCDRに付けて置いてあります。)



(吉城園)



(吉城園)

遷都 1300 年祭記念事業企画まとめ (3 班)

山本 規子

3 班が担当する、「原寸大茶室模型、起こし絵制作」にまとめ役として手を挙げたものの、茶室模型が来場したお客様にとって、良くも悪くも一番印象に残るに違いありません。

具体的に、どのような物を誰に作ってもらうかと考えていきますと、様々な問題が出てきました。



せんとくんも一服

〔どのような茶室をつくるか〕

模型を製作する目的のひとつは、茶室になじみのない方にも茶室を知っていただくことでしたので、当初、実在するものに拘らず、一般的な4畳半の茶室を考えていました。しかし、茶の伝来で、侘び茶の祖として、村田珠光をとりあげ、大和茶室探訪でも、パル展示のひとつとして、称名寺獨廬庵を紹介すると聞き、相互に関連したほうが展示の厚みが増すのではないかと考え、村田珠光ゆかりの寺として、獨廬庵を製作することに決定しました。

〔誰に作ってもらうか〕

3 月号の「土会なら」と土会ホームページに製作協力募集告知を載せていただきましたが、問い合わせすらありません。知り合いの工務店等に直接あたっても、予算、搬入搬出のハードルが高く、引き受けてくれる所はありませんでした。一方、紹介していただいた、数件の舞台装置を製作する業者にも連絡をとっていたところ、唯一 関西舞台榎さんが相談に乗ってくださいました。予算内で収めるには、全てカキワリであるしかない聞き、仕事場にお邪魔して、そのカキワリの実物を見せていただく事になりました。4/15、3 班メンバーと安田事業委員長で、大阪日本橋の

国立文楽劇場内にある、会社を訪問しました。文楽の大道具として作られた背景は、平面でありながら、色彩、影の描き方で、立体的なだけでなく、様式美とでもいうような魅力を持ったものでした。茶室模型にぴったりと感じ、安田事業委員長の承認も得て、お願いすることに決定しました。

〔茶室模型製作過程〕

1, 2, 3 班合わせて、総勢 11 名が参加し、2010 年 3/5 称名寺獨廬庵の見学会を行いました。このときの資料を基に、関西舞台榎さんに、図面、写真等を送り、製作に掛かっていただきました。



称名寺獨廬庵 (実物)

5 月には、カットされた 900×240 のパルを仮組立し、来場者に見てもらおう為の開口部などをチェックしました。文楽人形の背景に比べて、製作サイズが大きいのと、表裏両面とも描かなければいけない事で、多少勝手が違うとお聞きしました。



文楽劇場の地下にある作業場

6/7 ほぼ完成との連絡をいただき、3 班メンバーと安田事業委員長で見に行きました。初めの打ち合わせの時、掛け軸や腰張りのもとより、障子の棧の折れや、壁の傷んでいる様子まで写していただくようお願いしておりましたが、お渡しした資料だけでは納得いく仕上げができないと、5 月の珠光忌にあわせて、見学に行ってくださいました。おかげ様で、近くに寄れば確かに描いてあるだけだと判るのですが、写真にとれば、模型ではなく実物

の茶室と見まがうものになっていました。



この時期、皆様から「茶室模型は、建築士会の展示として恥ずかしくないものができるのか?」とご心配の声も聞こえてきておりましたが、この出来ばえを見ておりましたので、「大丈夫です。」とお答えすることができました。

〔搬入、搬出〕

搬入搬出とも、関西舞台(株)さんからスタッフが大勢来てくださり、1時間あまりで作業が終わりました。



ただ素早だけでなく、釘跡を隠すといった細かい部分まで気配りの作業に感心です。ひとりひとりが、自分のやるべき事を理解して動いている、滑らかさと静かさが印象的でした。解体したばかりは、今後展示する機会があることを期待してしばらくの間、保管しておく事になりました。

〔イベント当日〕

生憎の空模様、暑さでしたが、1000名を超える来場者がありました。3班としては、他の班の皆様 비해、自分たちで製作をしたものは少なく、申し訳ないような気持ちでございましたが、当日は茶室模型の説明、起こし絵の指導などメンバー全員楽しく頑張らせていただきました。



事務局の岡口さんが
して下さったしつらえ

〔起こし絵〕

用意した数は105セット、はさみで切り離し、のりで貼っていく形をとりました。会場で作っていただくことを原則にしましたので、ツアーで来られた方の多くは、時間がないということで、素通りでしたが、一旦作り始めていただくと、結構時間がかかる為、色々なお話をさせていただくことができ、良かったと思います。



〔まとめ〕

初めてこのような大きな行事にスタッフとして参加させていただき、得るものがたくさんありました。皆様の瞬発力に刺激されたこと、日頃の仕事では接点すらないような方々と出会えたこと、思いもよらないご助力をいただいたこと等々。本当にありがとうございました。



平城遷都1300年祭記念事業

参加者からのコメント

(班別の50音順 敬称略)

1班 武市 啓子

まず、何をどうしたらいいの？作業を始めてすぐに、茶室について何も知らない自分に愕然としました。1カ月ほどは、本を読み込みやと村田珠光や周りの人たちの事が少しわかってくると、村田珠光の茶室に対する真摯な姿勢が好ましく思えてきました。彼らは、4帖半という空間の中で一体何を感じていたのだろう、と思うと興味は尽きませんでした。大変だったけど、このような機会を与えてくださって感謝しています。ありがとうございます。

1班 前田 晴子

茶室初心者の私にとって、遣唐使空海と茶と奈良が深く結び付いているという驚き。会議・勉強会と大変だったけど茶室のおもしろさと奥深さにやっと気付く。耳に焼きついた「つぼつぼ」の語感。一生に一度の古代衣装体験。「記念撮影させて」「一緒に撮っていい？」「韓国の衣装みたいね」「ああこれで奈良の思い出ができたわ」のお言葉。これも一つのおもてなしだったと思う。遷都1300年に女性委員会の皆様と事業に参加できた事と出会い。

2班 岩城 由里子

準備の期間にはあまり参加することが出来ず、大和茶室探訪Iの再発行の確認作業のお手伝いをさせていただきました。開催前の勉強会では、岡田さんより茶室の事を2回に分けて教えていただきました。大変興味深い内容で、機会があればまたご教授頂きたいと思いました。会場では各班の展示とも大変立派で、これも女性委員会のメンバーが尽力された結果だと思えば、皆さんの顔が浮かびとても感激しました。本当にお疲れ様でした。

2班 上田 壽子

平城遷都1300年祭に参加して

わずか半年の準備に、最初はどうなるのかと心配したものの、会期が近づくに連れてターボエンジンがかかって無事終えることが出来ました。仕事も忙しいでしょうに安田前委員長もがんばりました。スタッフの人たちも夜なべをしたり、何度も取材に行ったり、ほんとうにご苦労様でした。ひとつのことを成し遂げるといのは大変ですね。せんとくんも来場、また一般紙にも大きく紹介され足を運んでくださった方たちにも感謝です。

2班 梶谷 治美

開催日、3日間の最終日は雨で始まりました。入場者は途切れる事なく来られました。「新聞で見た」「友達に聞いて来た」「今日までと聞いて慌てて来た」と色々な方が来られてました。「大和の茶室紹介」のパネルの説明をし、思いもかけない質問に戸惑い、急いで勉強会のプリントや本を見たりと、一応の説明をしましたが、改めて自分の勉強不足を知る一日となりました。

2班 中辻 千重

準備の会議には殆ど参加できなくて、準備委員の皆さんには大変御迷惑をおかけしましたが、当日は古代衣装を着せていただき、とても楽しく貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございます。この節目の年に奈良に住んでいて、様々なイベントを身近に体験できることはとても幸運なことなんだなと思いました。

2班 中西 佳奈

今回の1300年祭事業は、事前の準備も勉強会にも参加できなくてご迷惑お掛けしました。最終日は、かなりの悪天候の中、たくさんの方にご来場頂けて、本当に良かったです。又、大変貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございます。

2班 本保 万貴子

県庁を2008年に退職して隠遁生活するつもりが、自覚のないまま誰かに外堀を埋められ、1年後には近建女担当に、そして3年目の今年、昔関わったお茶室ならと2班に名乗りを挙げたのが運の尽き。最初はどうかと心配したけど、班全員のがんばりがすごかった。遅くまでの会議の合間はメール交換、展示のイメージ作り、団扇のデザインの横で本の編集と、お茶室にどっぷり浸かった充実の2ヶ月。皆の底力を見ると、今後も女性委員会は盤石ですね。

2班 宮崎 眞友美

今年の初めから1300年祭事業の二班に参加して(大和のお茶室のパネル展示・大和茶室探訪の本の再版・ちらし製作・うちわ製作 という盛りだくさんの班に入れて頂き)7月1日の初日をむかえるまでの約6ヶ月間は仕事とのバランスをうまく考えないといけなくて(メールがいつも夜中になってしまい ご心配をお掛けしましたが…) いい意味、脳トレになったのでは… と思っています。短時間、少人数で仕上げなければならないという状況を乗り越えられたことで(諸先輩方のテキパキした行動を見習いつつ)脳が活性化され 最後には、スッキリとした気分でお展当日をむかえる事が出来たと記憶しています。百年に一度という大きなイベントで気分も盛り上がり 本当に充実した半年間でした。これからの仕事面でも、社会生活面でも役立つ よい勉強になったと思っています。二班の皆様をはじめこの事業にご協力頂きました皆様、私至らないところばかりでしたが、ご指導ご鞭撻頂き 本当に有難うございました。また、このフープをご覧の皆様、是非次回のイベントには多数の方々のご参加・協力をお願いできないでしょうか? きっと充実した日々を過ごせると 생각합니다。ちょっとハードですけど…

(次回は大人数のまとまりの勉強になるといいのですが…)

ともあれ、今振り返ると本当に楽しい日々でした。あれから約2ヶ月… 只今 次回にむけて充電中です。(今年は 暑くて暑くて 消耗中かも???)

3班 相河 真弓

今回の1300年祭事業では多くの皆さんにお世話になり、ありがとうございました。

無事に原寸模型「獨廬庵」が完成したこと、嬉しく思います。

改めて、「奈良」の町に住み、設計の仕事に関わらせて頂いていることの意味を考えました。

3班 山下 宣子

奈良の建築士会に名を連ねておきながら、会社も自宅も大阪の為、なかなかいろいろな催しに参加出来ずにいましたが、今回は、参加させていただく事ができ、とても思い出深い体験をさせていただきました。茶室模型と起こし絵体験で、大道具さんが造る茶室模型のすばらしさには感動致しました。影や、光の当たるところや湿気のある質感の描写や、茶室そのものよりも絵画の領域に見とれました!! 起こし絵も楽しかったですし、古代衣装も着れて本当に有意義な体験をさせていただき有難うございました。

当日お手伝い班 木下 美佳

平城遷都1300年記念事業の参加依頼のながきが届いた時は、正直、会社勤めをしており、時間の融通が付きにくい為、無理かな… と思いましたが、普段から何もお手伝い出来ていないので少しでも! という思いから参加させて頂きました。

結果、個人的にご指導頂いた勉強会と準備しか参加出来ず、何のお役にも立てず仕舞いでしたが、事業を通じて茶室の深さ、皆様との交流、そして色々にご指導頂いた安田先生との出会いが、私にとって有意義な時間となりました。ありがとうございました。

私達の活動の記録写真あれこれ



(左) 岡田先生の勉強会

5/20の総会前の全体会議

検討中、ここどうする？



6/18 全体リハーサル 1班・2班・3班

リハーサルは3班とも ドキドキでした？！



6/30 交流ホール会場設営中 お気をつけて。



入口に看板も完成！
いらっしやいませ！

つってかみり起こし絵

本保さん活躍中！



古代衣装をまとい、チラシやうちわ配りでイベントのご案内やおもてなし。



みなさん いい笑顔です!



せんたくんもご来場!



ボンジュール! Chashitsu!



おもてなしの心でご説明。



上田副会長、独盧庵茶室模型の前で。



つくってみよう起こし絵体験。



独盧庵茶室模型のご説明。



パネルを見つめるお客様。



展示パネル 1班・2班。



士会事務局の方もご協力。



看板作成 竹上さん。

平城遷都 1300 年祭記念事業

参加・協力した女性委員会会員等

(50 音順・敬称略)

相河	真弓	青木	順子
岩城	由里子	上田	壽子
大原	道江	岡田	伸子
梶谷	治美	鎌田	由美
川村	貞子	木下	美佳
栗原	昭子	杉田	数代
庄田	尚代	武市	啓子
竹上	由美	田中	孝子
田ノ岡	絹子	辻本	希
藤山	久仁子	中辻	千重
中西	佳奈	平島	朋子
本保	万貴子	宮崎	眞友美
前田	晴子	安井	ひとみ
安田	千鶴代	山下	宣子
山本	規子		

その他 協力者

齋藤	由美子 (YKKAP)
田仲	隆行 (土会事務局)
松尾	晶子 (")
岡口	陽子 (")
長崎	信子 (")
橋崎	真由美 (")



平成22年10月1日～平成23年1月31日
～事業予定～

平成22年

- 10月9日(土)
既存木造住宅の耐震診断・補強設計勉強会
- 10月10日(日)
平成22年木造・一級建築士設計製図試験
- 10月22日(金)～10月23日(土)
全国大会(佐賀県)
- 11月20日(土)
景観調和デザイン賞 公開審査会
近畿建築祭(滋賀県)
- 11月24日(水)
平成22年 第3回目定期講習(奈良市)
受付済み
- 11月29日(月)～12月28日(火)
平成22年第4回目定期講習受付
講習会実施日
平成23年2月24日(奈良市)

平成23年

- 1月7日(金)
新年名刺交換会及び
景観調和デザイン賞表彰式
- 1月19日(水)
応急危険度判定士養成講習会
北部：奈良県文化会館
- 1月26日(水)
応急危険度判定士養成講習会
南部：社会福祉総合センター



編集後記

やっと、過ごしやすい季節になってきましたね。今回のフープは、平城遷都1300年祭の特集号としてご協力頂いた方々にも、コメントを頂きました。お忙しい中、原稿ご協力頂き有難うございました。今後もいろんな方に参加頂き、内容を充実させて行きたいと思います。今後とも、ご協力宜しくお願い致します。

中西 佳奈

今回のフープ特別号の編集をさせていただき正直大変でしたが、各班からの報告やたくさんの写真を見ていると、とても楽しく懐かしさを覚えました。今年の猛暑と共にとても印象に残ると思います。お忙しい中原稿をお寄せいただいた皆様、ご協力ありがとうございました。

前田 晴子